

留学を終えて

加茂高等学校 高田 琥珀（カナダ）

「あなたならできるよ！」その言葉が私を大きく成長させてくれました。カナダの人々の、何事に対しても挑戦する姿勢や、挑戦する人を心から応援する精神は、私に新たな世界を見せてくれました。この一年間は、今の私を形作る上で必要不可欠なものであったと確信しています。

「多角的な視野を身につけ、将来についてしっかり考えるためには時間が欲しい。」その思いから、私は留学を決断しました。カナダは日本とは異なり、多国籍国家であり、多様な民族や文化が混在しています。日本とは異なる価値観を持った人々と交流することで、自分の視野も広がると考え、留学先にカナダを選びました。

カナダに到着してすぐ、一週間程度のオリエンテーションがありました。それを受けた後、私の留学生活が始まりました。ホストペアレントと、ホストメイトであるドイツとメキシコからの留学生を含む5人での生活です。全員が集まる夕食の時間には、それぞれの文化について語り合い、私は積極的に日本の文化を紹介しました。この機会は、私にとって英語の上達だけでなく、互いの国の情報を共有するとても貴重な機会になりました。

学校にはイタリア、チェコ、スペイン、トルコ、中国など様々な国からの留学生が在籍しており、多くの国の生徒と交流することができました。金曜日の放課後には友人たちと海岸で焚火を囲み、語り合い、笑い合う時間がありました。私はこの「なんでも話せる時間」をいつも楽しみにしていました。

授業は選択制で、私は社会、数学、理科、国語、生物、キャリアライフ、バスケットボール、アウトドアの授業を選びました。アウトドアでは、サップ、カヌー、サーフィン、ボルダリングに挑戦するだけでなく、1泊のキャンプにも参加しました。キャンプの夜にはオーロラを観ることができ、クラスの仲間と初めてのオーロラを共有できたことは、忘れられない思い出です。

留学において、「授業が理解できない」や「話すスピードが早すぎて聞き取れない」といった苦労話をよく耳にしますが、私の場合はその心配はほとんどありませんでした。日本で生まれ育った私ですが、幼い頃から英語に触れており、歌やアニメ、YouTubeなども英語で楽しんできました。そのため、授業の内容を理解するのに大きな困難はありませんでした。

しかしながら、英語の成績が特別優れていたわけではありません。せいぜい中の上程度です。私にとって英語は「勉強」ではなく、「言語」であり「コミュニケーションツール」でした。文法などの細かい部分にはこだわらず、日本語を話すときと同じように自然に使っていました。そのような環境で英語に親しむことができたことを、今ではとてもありがたく感じています。

もちろん、授業内容が分からないときもありました。そのようなときには「素直に分からないことを伝える」ことを大切にしました。そうすると、周りの友人や先生、ホストファミリーが快く助けてくれました。カナダの授業では、生徒同士の議論が多く、多様な考えに触れることができる場面が多くありました。これも、カナダに来て良かったと感じる瞬間の一つです。

一年は長いようで、あっという間に過ぎました。現地の人と話す機会を設けたり、新しいこと

に挑戦したりすることは、全て自分次第です。私も消極的になってしまったことがありますが、そんなときは、ホストマザーが「自分から動かないと何も始まらない」と教えてくれました。

昼休みに友人とバスケットボールをしたり、部活動に参加したりする中で、チャンスは様々な場所に転がっていることに気づきました。それらを掴んでいった結果、相談できる多くの友達や家族の一員として迎え入れてくれたホストファミリーと信頼関係を築くことができました。

高校生という将来を決める分岐点において、他者の価値観や考えを共有することは非常に貴重な経験です。将来の夢を明確に持っていましたが、この留学経験は私にとって改めて自己を見つめ直す機会になりました。高い志を持ち、共にカナダを留学先に選んだ多種多様な国の留学生と刺激し合うこともできました。

多くの人の支えにより、充実した1年間を過ごすことができました。留学生活で経験したことは自信につながり、留学を充実させようと努力したことは、価値観や視野の広がりにつながったと感じています。

私にとってカナダは第二の故郷です。本当の家族のように私を応援し、励まし続けてくださったホストファミリーは、第二の家族です。過ごした時間はたった1年ですが、それは一生の糧になると思います。私は、「私」にしかできない、そして「今」しかできない旅ができたことを確信しています。